

28 賀古駅家の発掘

考古博物館が開館した平成 19 年から、現在も継続して行われている調査研究事業に、「兵庫県内における古代官道に関する調査研究」があります。

古代官道とは、飛鳥時代に整備され、奈良時代に改修された国の直轄事業の道、つまり「国道」のことです。主要なものとして、都と各地方を直接結ぶ七道（山陽道、山陰道、南海道、西海道、東海道、東山道、北陸道）があります。この時の名称は現在にも引き継がれて使用されています（山陽自動車道など）。

兵庫県ではこのうち山陽道、山陰道、南海道の3つの道が通過していました。

それぞれの道には、一定の距離（16 kmが基本）ごとに駅家（うまや）が設置され、馬の乗り換えや利用者の宿泊、饗宴などが行われました（今の高速道路のサービスエリア的な）。

この古代官道の考古学的研究は、兵庫県が全国でも最先端を進んでいる、と自信を持って言えるほどです。

その根拠は、全国で初めて駅家であると確認された遺跡「小犬丸遺跡（こいまるいせき）」【＝布勢駅家（ふせのうまや）】（たつの市）があること、さらに、全国で唯一の国指定史跡となっている駅家【野磨駅家（やまのうまや）】（上郡町）があること、が挙げられます。

当館では、山陽道の駅家のうち、賀古駅家（かこのうまや／加古川市）（H20～21）、（仮称）邑美駅家（おうみのうまや／明石市）（H22～24）、邑智（大市）駅家（おおちのうまや／姫路市）（H25～28）、高田駅家（たかだのうまや）（R1～）の発掘調査を行い、位置を確定したり、出土品を収集したりするなど、多くの成果を上げています。

私も、第1期の調査である賀古駅家（古大内遺跡／ふろうちいせき）の調査を2年間、担当しました。その間、山陽道から駅家の東門への進入路の発見、唐居敷（からいじき）の発見など、多くの成果がありました。

詳細は、以下に報告していますので、ご覧ください。

加古川観光協会「加古川探求記／賀古駅家発掘ものがたり 1～22」

<http://kako-navi.jp/series/page/2>



(学芸課 中村 弘)